

White e.p./Wonder-K

All songs written by Wonder-K

01.ノスタルジック

「ありえないこと」 「できもしないこと」 全部ゴミ箱に投げ捨てた後で ちょっと思い出した	大人になって 守るべきものも増えて その分僕たちはどこか 臆病になっていく	いつか何もかも 変わってしまったとしたって 「僕はここにいるんだ」って 胸を張って言えるよ
子供の頃 無邪気なまま 君と語り合った 大きな夢のこと そして君のこと	前に進むために 捨てたものはたくさん だけどその分だけ 「今」を愛せるよ	そして何もかも 変わってしまった世界で 変わることはない想いを 持ち続けていたいんだ こぼした涙も 苦しみも温もりも
あの日小さな公園で二人 覗こうとした未来と 今のこの現状は 少し違うけれど…	いつか何もかも 変わってしまったとしたって 変わることはない想いを 持ち続けていたいんだ 足掻いた昨日も まだ見えない明日も	全てが心の中駆け巡って 僕を作っていく
いつか何もかも 変わってしまったとしたって 「僕はここにいるんだ」って 胸を張って言えるよ こぼした涙も 苦しみも温もりも 全てが心の中駆け巡って 僕を作っていく	全てが心の中駆け巡って 僕を作っていく	

02. Lie

掴もうとして 壊してしまっ そんなことを繰り返してた そうして君は人並みの幸福さ 諦めようとしてんだらう	目の前にある全てのことが 重苦しくて息が詰まる そんなときには僕と一緒にさ 逃げ出そう 遥か遠くまで	君の心を覆っている この「嘘」は捨ててしまえばいい 壊れてゆく世界でも ただ僕が横にいるから
見上げた空は怯える僕らを 突き放すように遠く澄み渡るけど 僕らは二人で 震える身体で 明日を手繰り寄せる	失くしたものはあまりに多くて 数えればきつとキリがないけれど 歩き続けることでそれを超える 何かに出会えればいい	君の視界に広がる 「幸せ」に気付いてよ ねえ いつだって 迷うときも それを見つげられたなら 怖くないんだよ
君の心を覆っている この「嘘」に気づいてほしい 壊れてゆく世界でも ただ僕が横にいるから 怖くないんだよ	君の視界を遮る 「偽り」に気づいてほしい 光のない未来でも この手で明かりを灯すから 怖くないんだよ	

03. そんな瞬間

君が僕に見せる顔の
些細なとこまで全部で
人知れず僕の心は
揺れ動いてるんだ

不用意な君の優しさが
僕のこと突き刺しては
ほろ苦い痛みをまた
振りまいていくよ

僕の抱えている想いが
君の想いになった、
そんな瞬間を探して
僕は君を見ていた

もしも僕がいなくなつて
君の世界は変わらないで
いつものように回るんだろ
う
そんなの分かってる

だけど僕を君の中に
僕はつい探してしまう
あたたかな切なさが
僕を染めてゆく

僕の刻んでゆく時間が
君の時間になった、
そんな瞬間を探して
僕は君を見ていた

優しい風に吹かれ
カーテンが揺れている
もどかしい くすぐったい
時間が過ぎてゆく

僕の抱えている想いが
君の想いになった、
そんな瞬間を探して
僕は君を見ていた

僕の刻んでゆく時間が
君の時間になった、
そんな瞬間は来ないこと
初めから知ってたのに
また僕は凝りもせず
幻に手を伸ばす

04. Farewell

二人でいた光景が
ふと過って胸を焦がす
解かれたこの手にまだ
僅かな熱が燻ってる

もっともらしい理由をつけてさ
全てを受け入れたはずなのに
なぜか胸が苦しい

止め処ない悲しみの中
動けぬ僕はただ泣いてる
ほどけ出した物語は
涙にそっと滲んで消えてゆく

僕の世界を包み込んだ
その魔法が解けた後で
僕は愛の意味をついに
痛いほど知ってしまった

いつも僕の涙を拭った
優しい手はもうそこにはない
僕は独りなんだ

止め処ない悲しみの中
動けぬ僕を連れ出してよ
そう願う心の声は
離れる君に届くはずもなく

止め処ない悲しみの中
動けぬ僕はただ泣いてる
ほどけ出した物語は
涙にそっと滲んで消える

溢れる寂寞の中
動けぬ僕を連れ出してよ
そう願う心の声は
そっとしまつて歩き出さなきゃなあ…

05. Exit

寂しさを僕はそっと
ポケットにしまいこんで
敷かれたレールの上で
ただなんとなく生きていた

手当たり次第に縋り付いた
時代が押し付ける「理想」
そんなものでこの痛みは
覆い隠せやしないのね

「こんなはずじゃない」だなんて
嘆く日々の中で
掠れてく祈りを
忘れたくないよ

何処までも続いていくような
暗闇に出口を探したんだ
ただ君がいるならその向こうへ
飛んでいけるのに

僕の中の汚れを
フィルターに通して僕はまた
「綺麗な言葉」を吐いて
笑顔を振り撒いたんだ

本当は泣き叫びたくて
でもその勇気もない
こんな僕を誰かが
分かってくれないかなあ

何処までも続いていくような
暗闇に出口がなくなつて
ただ君がいるなら僕はもう
笑っているのに

不器用なこの一歩が
正解へと続いているなんて
今でも僕はまだ信じている
信じているんだよ

何処までも続いていくような
暗闇に出口を探したんだ
ただ君がいるならその向こうへ
飛んでいけるのに

ただ君がいるなら…

06. Our Song

めぐってゆく季節を超えて
絶えず流れるメロディー
心澄まして 君を想えば
確かに聞こえてるんだ

永遠など初めから
僕も信じちゃいないが
二人が奏でる音は
多分なくなりはしないだろう

心が近づいてくほど
傷つけあうことも増えてしまうけど
君の事をもっと僕は知りたいんだ
いつだってそう思うよ

僕らの歌は流れてる
生きていくどんな場面でも
何よりただ心の奥
その音に気づいたよ
何か一つ終わったとしても
また一つ何かが始まる
そして僕らの物語は続いていくよ
遙か未来にも

君が今つぶやく言葉
そのありふれた響きで
嬉しくなって 悲しくなって
「生きてる」って気持ちになんだ

これからのことだなんて
何一つ分かりはしないけれど
二人がこの時を笑って過ごせたら
それだけで生きてゆける

僕らの歌は流れてる
生きていくどんな場面でも
何よりただ君の声
その音に気づかせた
立ちすくむ道の途中で
また一つ何かを失くしても
確かにここにあるものは
君と僕が紡ぐ旋律

エンディングへ続く道を
なるたけ遠回りして歩こう
木漏れ日の照らす愛しい風景を
深く刻みつけながら

僕らの歌は流れてる
生きていくどんな場面でも
何よりただ心の奥
その音に気づいたよ
何か一つ終わったとしても
また一つ何かが始まる
そして僕らの物語は続いていくよ
遙か未来にも

ずっとずっと続いていくよ
遙か未来にも

07. Whiteout(Instrumental)